

●大震災と町

兵庫県南部地震は、淡路島の各市町に大きな被害をもたらした。淡路島全体では57名が犠牲になり、震度7地域が確認された北淡町、一宮町、津名町だけで53名の命が失われた。

淡路島は、昔ながらの農村・漁村の良さが生きている地域である。

江戸時代から続いている、「向こう三軒、両隣」のいわゆる『六人組』の風習が残っていたため、『どの家では、だれが、どの部屋で寝ているのか』まで知ることができ、突然の大災害に対しても、消防団をはじめとする人々の救助活動を迅速にすることができた。そして、地震が発生したその日のうちに、全員の安否が確認できたという結果を生んだ。

この「大震災と町」の項は、震災発生直後の生々しい被災の状況や、復興に向けての歩みをはじめた町のすがたを、特に被害の大きかった津名郡6町について記録したものである。

●被災地を代表して

北淡町長 小久保 正雄

●津名町

●淡路町

●北淡町

●一宮町

●五色町

●東浦町

被災地を代表して

飛んで火に入った夏の虫

北淡町長 小久保 正雄

「ドン！！」枕元に巨大な鉄の塊でも落ちたような衝撃に続いて、この世のものとは思えないような激しい揺れが襲ってきた。

部屋の中の物が飛び散り始めた。私はたまらず大声を出して半身を起こし、頭だけでもふとん横のコタツに入れようとした。とたんに、枕元の半タンスが凄い勢いでふとんの上に倒れた。一瞬の差だった。

電気が消えたが、まもなく、またついた。

まだ揺れていた。柱が「く」の字に曲がっているように見えた。

ようやく揺れが収まり、隣の部屋に寝ていた妻に「大丈夫か」と声をかけて一階へ降りたが、ありとあらゆる物が散乱しているに加えて、中トビラがしまって通れない。風呂場の窓からやっと脱出して隣の空き地に出た。

近所の人達が数人集まっていて、こどもも恐怖を語り合っていた。しばらくすると妻が家から出てきて、「おとうさん。役場へ行くんじゃないの」と言ったので、私は初めて我にかえり、自分が町長なんだということに気がつき、いつもの道を通って役場へ行こうとしたが、倒壊した民家が道路をふさいで通れず、第二のルートもダメ。結局第三のルートでようやく役場にたどりついた。時に一月十七日午前六時十五分頃であった。すでに総務課長が来ていた。

「とんでもない事態が起きている」と体中が震えるような思いにふける間もなく、様々な姿や状態の住民が役場の灯りを求めて集まりはじめた。私は出勤しはじめた職員に避難者を町民センターに誘導するよう命じると同時に県庁へ連絡を取ろうとした。しかし、それは八時五十分ごろまでは無駄骨であった。

こうして私の生涯で最も長い一日が始まり、地獄のような日々が動き出した。

無我夢中で執行した合同葬儀、住民と行政が一緒に、必死に助け合った初期の頃、避難所の中で無気力と露骨なエゴが出始めた一月末頃、両陛下のお見舞い、数多くの政治家などの視察、熱心すぎるマスコミ取材の対応、一回に四千食の避難所給食の手配、ボランティアへの御礼。そんな状態の中に生じた自衛隊員や消防関係者との友情や連帯感など …。

あれから半年がすぎた今、すべてがなつかしくもあり、悪夢のようでもあり。

「町長になったとたんに、こんなことが。ほんとに気の毒やなあ」と住民から何度慰められたことか。

「飛んで火に入った夏の虫だわな」と言いながら、一部住民の反対の動きに気を配りつつ町の復興計画を考えているこの頃である。

最後になりましたが、全国の皆さんからの温かいご支援によって、今、北淡町は復興への道を歩み始めました。この素晴らしいエネルギーを与えていただいた皆さん、本当にありがとうございました。





津 名 町

津名町は、淡路島の中央部の町である。
今回の震災では、5名の犠牲者と多くの家屋
被害があり、震度7地域のあったことも確認
された。
救援物資輸送には、津名港が大いに活用され
た。



くずれてしまった家並みを見つける人（志筑地区）



自衛隊によるガレキの撤去作業（志筑地区）



倒壊した引摂寺山門（H.7.1.17）



県指定文化財 引摂寺十三壺石塔の倒壊（H.7.1.17）



消防団員による救助作業（H.7.1.17）



船による救援物資の輸送が行われた。（津名港）



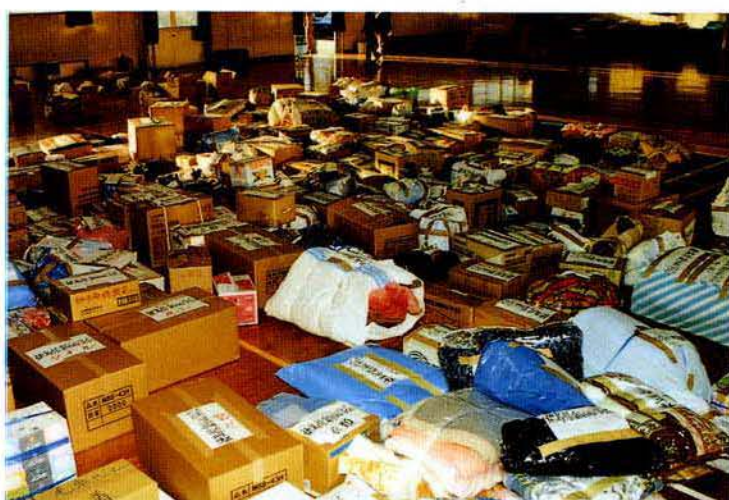
近隣市町村からの給水車も到着（役場前）



公民館前での給水の様子（塩田地区）



食料がどんどん運ばれる。（役場）



全国から届いた救援物資（志筑小学校体育館）



仮設住宅の建設の様子（志筑新島地区 H.7.1.）



仮設住宅で新しい生活が始まった。（志筑新島地区 H.7.2.）



淡路町

淡路町は、淡路島の最北端にあり、今回の地震の震源に最も近い町である。

多くの家屋が倒壊し、港湾施設などの被害も甚大であった。

また、建設中の明石海峡大橋では、アンカレジが西へ1.4 mずれたことが確認された。



住宅の底を巨大な岩が直撃した。(岩屋、大和島付近)



取るものもとらず出勤した消防団員 (岩屋長浜地区)



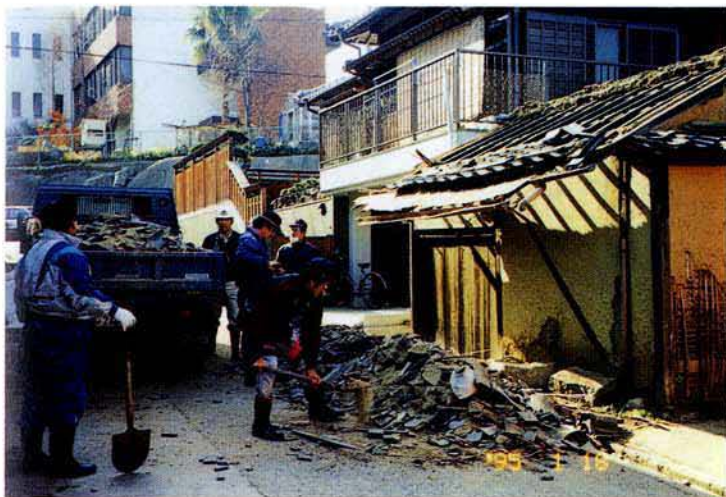
岩屋松帆海岸



港湾建設の至る所でこのような被害がみられた。
(岩屋港長浜地区)



町役場の中の様子 (H.7.1.17)



消防団員によるガレキの撤去作業（岩屋中町地区）



近所の人も協力し、震災の翌日には通路がきれいに整理された。（岩屋刎田線地区）



瓦が落ちてしまった屋根にビニールシートをかけているところ。今でもビニールシートのままの家屋が残っている。（岩屋東ノ町地区）



淡路町公民館に到着した緊急物資輸送のトラック（岩屋東町地区）



今にも倒れそうな建物に「キケン」の表示を自主的に行っている人（岩屋東ノ町地区）



給水の様子（岩屋長浜地区）



北 淡 町

北淡町は、当初今回の地震の震源地と考えられた町である。

野島断層の出現が大きな話題になった。

震度7地域が多く確認され、被害は島内で最も大きかった。

町内の各所で消防団、自衛隊、ボランティアの活躍が見られた。



全壊して道路に崩れ落ちた家屋（富島地区 H.7.1.20）



屋根瓦の落ちた家屋が多く見られる。
この後、これらの家屋の大半が撤去された。
（富島地区 H.7.1.20）



地震の揺れで漁船が転倒し、岸壁にも数多くの亀裂ができた。（斗ノ内地区 H.7.1.20）



自衛隊によるガレキの撤去作業
（富島地区 H.7.1.22）



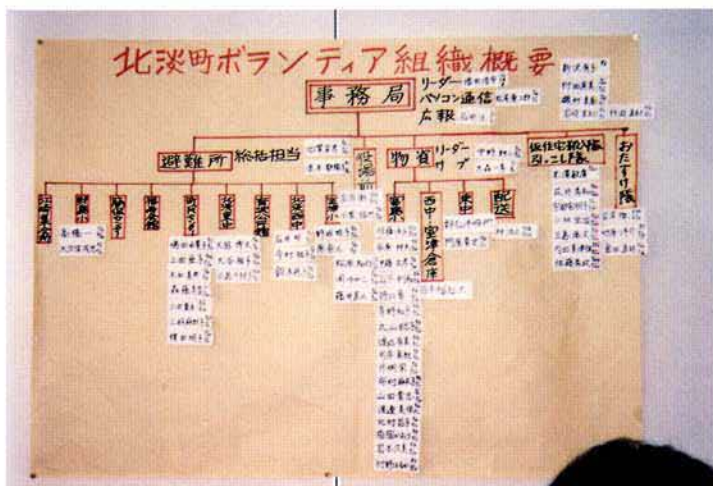
浅野小学校での炊き出しの様子（H.7.1.25）



町民センター前での炊き出しの様子（H.7.1.24）



ボランティアによる援助物資の仕分け作業（富島小学校体育館 H.7.2.23）



自衛隊、町の内外からのボランティア、地元高校生などから、心身共にあたたまる炊き出しが行われた。



北淡東中学校グラウンドでの自衛隊による炊き出し（H.7.2.20）



町民センター前、温かいぜんざいも用意された。（H.7.3.20）



避難所の様子（育波小学校体育館 H.7.1.23）

北淡町では、震災発生当初から多くのボランティアが活躍した。
左はボランティアによって作られた組織の概要図
（役場庁舎内 H.7.3.6）

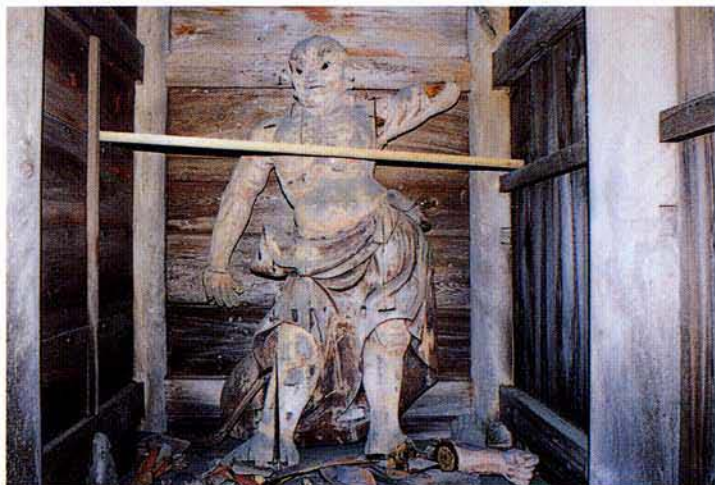


一宮町

一宮町は、北淡町に次いで被害の大きかった町である。特に郡家地区は倒壊家屋が集中した。消防団や自衛隊による救助、復旧活動が盛んに行われた。



倒壊した浜の宮神社



仁王様の左腕も落ちてしまった。
(東山寺)



消防団による倒壊家屋の撤去



自衛隊によるガレキ撤去作業



自衛隊による給水



自衛隊ヘリコプターによる物資の輸送（県立淡路文化会館グラウンド）



災害対策本部前の物資搬送の様子（一宮町役場）



全国から届いた援助物資（ＪＡ日の出一宮支店本部倉庫）



自衛隊による炊き出し（郡家小学校）



避難所で避難住民によって自主的に作られた在所確認札
（一宮老人福祉センター）



救援物資の配布の様子
（ＪＡ日の出一宮支店本部倉庫）



ボランティアによる炊き出しの様子（一宮町老人福祉センター）



地震なんかには負けない。早くも商売再開!!（郡家商店街）



五色町

五色町には、町営の「淡路五色ケーブルテレビ」がある。町内のほぼ全戸で受信されていて、広報、情報提供の重要な手段となっている。今回の震災では、町内の被災の様子をはじめ仮設住宅の建設、ボランティアの活動等が記録され、貴重な映像資料となった。



即日重機が投入され、道路の整備が行われた。(H.7.1.17)



震災当日の様子。すでに消防団が出動し、活動に入っている。(H.7.1.17)



炊き出しのおにぎりが地元の主婦ボランティアによって作られた。
(H.7.2.7) *



できあがったおにぎり (H.7.2.7)



援助物資(衣料品)の仕分け作業 (H.7.2.18)



1. 基礎の杭打ちが始まる。(H.7.1.23)

*



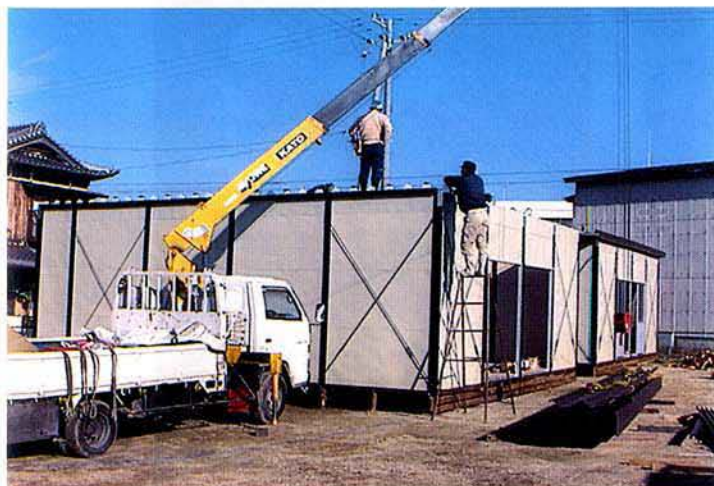
2. フレームを組み立てる。

*



3. 壁を取り付ける。

*



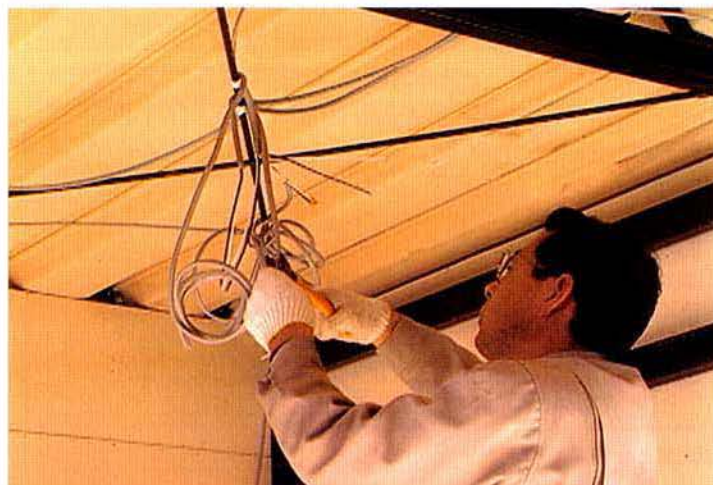
4. 屋根のフレームを設置する。(H.7.1.26)

*

五色町では、被災地のうち最も早く仮設住宅が完成した。(H.7.2.2)

淡路五色ケーブルテレビには、基礎の杭打から入居に至るまでの様子が記録されている。

(*：淡路五色ケーブルテレビの映像より)



5. 電気の配線、内装をする。

*



6. 入居者に町からの差し入れが届けられた。(H.7.2.2)

*



仮設住宅横で衣料品の配分が行われた。(H.7.2.27)



東 浦 町

東浦町は震災により、家屋や道路、水道、学校などの公共施設に大きな被害を受けた。



地震によって屋根瓦がずり落ちた民家

壊れた家に家人が取り残された。



1. 壁を破って救助を試みる。

*



2. 横からだけでは無理なので屋根板も取り外して、内部を調べる。

*

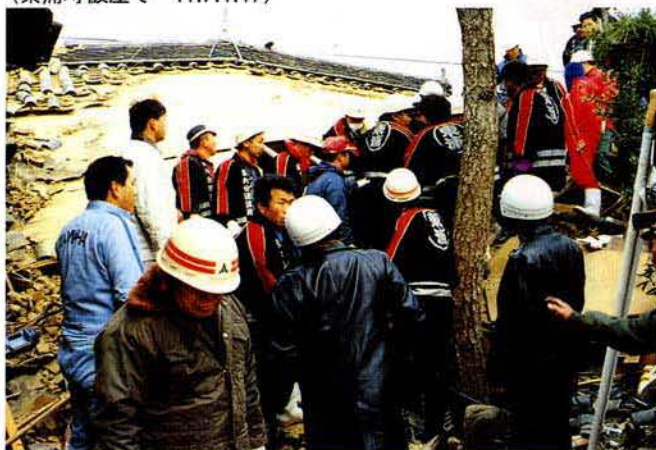


東浦町大磯港 住民の避難・物資輸送に活躍した船舶群



3. 被災者が確認され、タンカが用意された。
(東浦町仮屋で H.7.1.17)

*



4. 皆が被災者の安否を気づかう。

*



5. 被災者は無事救出された。

*

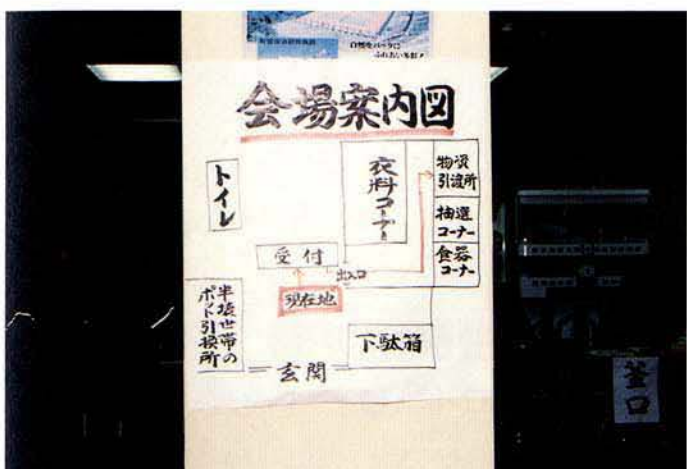


ボランティアによる避難者への弁当づくり
(東浦町老人福祉センターで H.7.1.18)

*



ボランティアによる救援物資の配布準備
(東浦サンパーク体育館で H.7.2.7)



東浦サンパーク体育館にて救援物資の全戸配布が行われた。
会場に設置された案内図 (H.7.3.25~H.7.3.26)



地区ごとに受付をすませ、物資を受け取りに....



公平に配布するため、数に限りのあるものは抽選で.....



震災により校舎が使用不能となり、仮設校舎の建設が急がれた。
(東浦中学校で H.7.3.12)